CASBEE 大阪 みらい 建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル：CASBEE大阪みらい（新築）　▌使用評価ソフト：「CASBEE大阪みらい 新築」2024年版 (v.1.0.4)

1-1 建物概要

建物名称	ボートレース住之江選手宿舎
建設地	住之江区泉1丁目
建物用途	寄宿舎・事務所
建築主	
設計者	
竣工年	2027年10月　予定
構造/階数	RC造　/　地上4階
敷地面積	2693.90 ㎡
建築面積	929.30 ㎡
延床面積	3299.25 ㎡

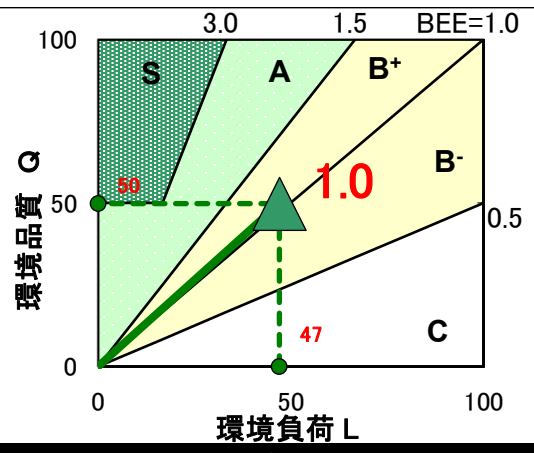
1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEﾗﾝｸ&ﾁｬｰﾄ）

B+

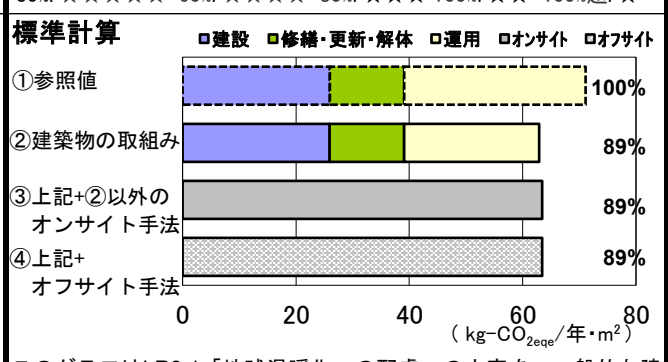
BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



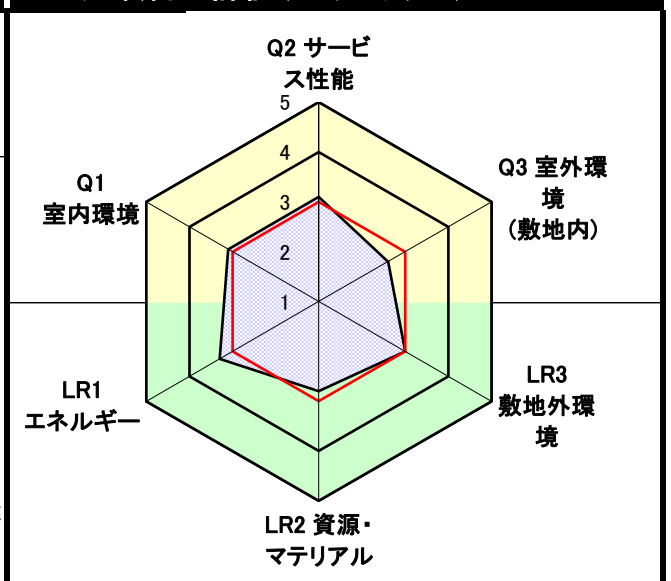
2-2 ホールライフカーボン（温暖化影響ﾁｬｰﾄ）

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC 排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI＋で表示しています。

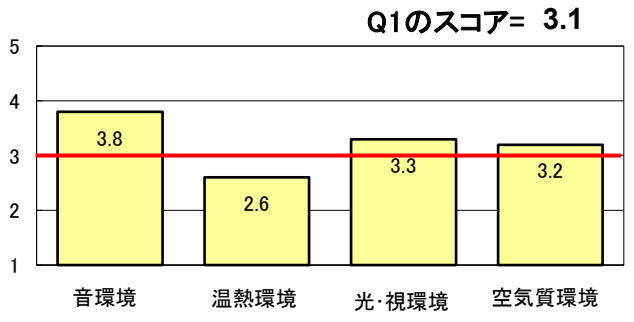
2-3 大項目の評価（ﾚｰﾀﾞｰﾁｬｰﾄ）



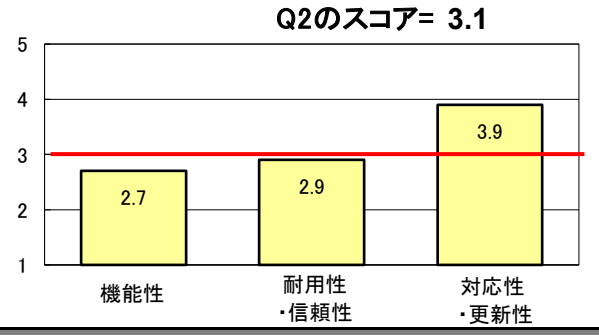
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.9

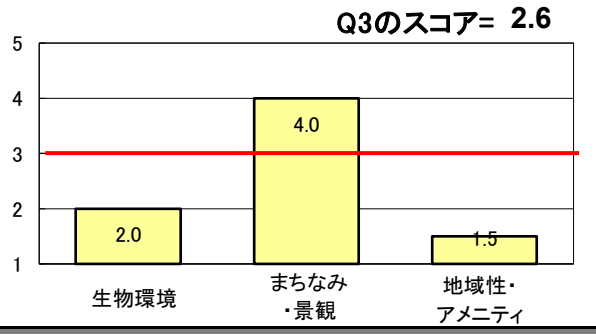
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.1

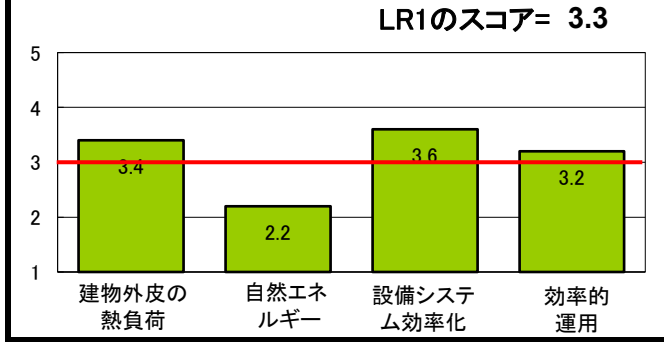


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.6

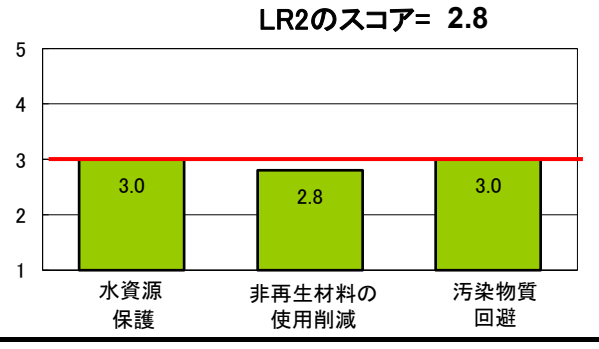


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.1

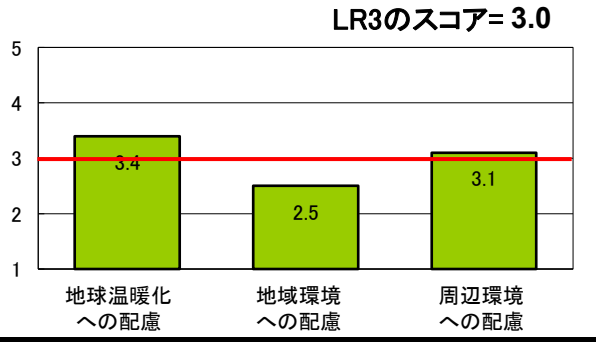
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.0



3 設計上の配慮事項

総合

本計画では、居住性の向上を図るために複層ガラスを採用して室内環境のクオリティを高めています。コア部分以外には乾式間仕切壁を適用することで、将来のレイアウト変更等にフレキシブルに対応可能計画としています。さらに、太陽光発電システムなどの自然エネルギー利用設備を導入することで、運地球環境負荷の低減に配慮した設計を行っています。

その他

特になし

Q1 室内環境

主な居室の外壁開口部には、遮音性能T-2以上のサッシを採用し、屋外の騒音の侵入を低減させています。特に宿泊室部分は隣接する居室間の界壁には高遮音構造（TLD-56）を採用し、プライバシー保護と音の相互干渉を低減しています。

Q2 サービス性能

水回り・エレベーターシャフト・階段室などの固定コア部分を除き、間仕切りには乾式間仕切壁を採用することで、将来的なレイアウト変更や用途変更、リノベーションにフレキシブルに対応可能な計画としています。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺地域に配慮し、建物は道路からセットバックさせて計画しています。
厨房排水には油脂截留器（グリーストラップ）を設置し、公共下水道への水質負荷を低減しています。

LR1 エネルギー

建物の標準的な省エネルギー性能向上を図るため、外皮にLow-E複層ガラスおよび高断熱材を採用しています。
設備システムにおいては、全熱交換器（HVAC熱回収）の設置による外気負荷の低減しています。

LR2 資源・マテリアル

自動水栓を選定し、節水を行っています。
低ホルムアルデヒド・低VOC建材の使用：F☆☆☆☆適合の内装材、接着剤、塗料、クロス等の全面採用します。

LR3 敷地外環境

屋根面への太陽光発電設備の設置による自家消費型再生可能エネルギーの導入しています。
敷地内に高木・中木を中心とした緑地を配置し、日陰の形成と蒸散作用による温度上昇の抑制を促進しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ホールライフカーボン（WLC）」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

建築物環境性能表示　結果〔重点評価〕

総合評価BEE　=　1.0

ラベル表示



環境性能		評価点	
(1)CO2削減		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR3/ 1 /　/	地球温暖化への配慮	3.4	緑地の適切な配置
配慮事項	高木・中木を中心とした緑地を配置し、日陰の形成と蒸散作用による温度上昇の抑制を促進してる。		

環境性能		評価点	
(2)みどり・ヒートアイランド対策		2.0	
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能			概要記入欄
Q3 / 1 /　/	生物環境の保全と創出	2.0	外構緑化指数＝26%
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上	2.0	
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善	2.0	
配慮事項	高木・中木を中心とした緑地を配置し、日陰の形成と蒸散作用による温度上昇の抑制を促進してる。		

環境性能		評価点	
(3)建物の断熱性		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 1 /　/	建物の熱負荷抑制	3.4	Low-E複層ガラスおよび高断熱材
配慮事項	外皮にLow-E複層ガラスおよび高断熱材を採用しています。		

環境性能		評価点	
(4)エネルギー削減		4.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 3 /　/	設備システムの高効率化	3.6	太陽光発電設備の設置
配慮事項	屋根面への太陽光発電設備の設置により、自家消費型再生可能エネルギーを導入している。		

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 住宅部分の一次エネルギー消費量については、BEIが1.0以下であること
※ 非住宅部分の一次エネルギー消費量については、「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（以下、「省令」という）」第1条第1項第1号もしくは、省令第1条第1項第3号に掲げる基準以下であること。

	住宅部分（品確法等級）		非住宅部分[BPI][BPIm]
外皮性能	等級4	（相当）	0.70

	住宅部分[BEI]	非住宅部分[BEI][BEIm]
一次エネルギー消費量	0.78	0.70